

マエストロの白熱教室 2019

指揮者・広上淳一の音楽道場

2019年11月10日

フィリアホール 横浜市青葉区民文化センター

フィリアホール主催の「マエストロの白熱教室」が開催された。2013年からスタートし、今年で7回を数えるという。

この「白熱教室」は2012年にNHKで放映され大きな話題をよんだが、本学では、何も特別な授業ではなく、普通に行われている「指揮合同レッスン」なのだ。学生有志がオーケストラを編成し、指揮教員をはじめ、「プロオケ」の奏者など日本を代表するプレイヤーが（時にはオケに入りつつ）特別アドバイザーとして受講生を多角的に指導する。

広上淳一本学教授は、指揮のテクニックに留まらず、学生の音楽に対する姿勢・人生観にまで切り込んでいく。まさに切れば血が出る真剣勝負。「道場」と呼ばれる所以だ。それがホールで見られるのだから、毎年満席の盛況で、チケットが取れない人気プログラムのひとつ。

「今年はバラエティ形式」とマエストロ広上が言われるように、本学在学学生6名・聴講生3名・卒業生1名の計10名が次々と指揮台上がり、レッスンが行われた。あっという間に3時間が過ぎ、もっと聞きたいと思ったのは私だけではあるまい。





さて終演後は、もうひとつのお楽しみ。例年どおり来場者と出演者との交流レセプションがロビーで行われた。

丹沢山系に沈む夕日を浴びて、宴が始まる



モーツァルトを背に、来場者と歓談するマエストロ



来場者の声

「数年ぶりに来ました。正面から見た受講生の指揮姿がスクリーンに投影されたり、内容が親しみやすくなっていて、前よりも楽しめました」

「アマチュア合唱団のメンバーで指揮者のアシスタントを務めています。ずっと見たかったのですが、今年はじめてチケットが手に入りました。たいへん勉強になりました」

オーケストラの学生の声

「『大学でのレッスンより、ホールでお客さまを前にした方が格段にいい』と受講生を先生が評していましたが、私たちも同じです。やはりステージ上ではテンションは上がります。合同レッスンに参加することで、譜読みの力が付きますし、いろいろな曲が体験できます。また特別アドバイザーの先生方と一緒に演奏するのも、いい勉強になります」

(広報課)